

今月の主要経済指標

目 次

今月の経済関係統計調査資料	
(1) 宮崎県景気動向指数 (統計調査課)	1
(2) 宮崎県の鉱工業指数 (統計調査課)	2
(3) みやざきの賃金・労働時間・雇用の動き (統計調査課)	3
(4) 宮崎市の消費者物価指数 (統計調査課)	4
【参考】	
・「月例経済報告」抜粋 (内閣府)	5
・「宮崎県金融経済概況」抜粋 (日本銀行宮崎事務所)	6
・データ編	8

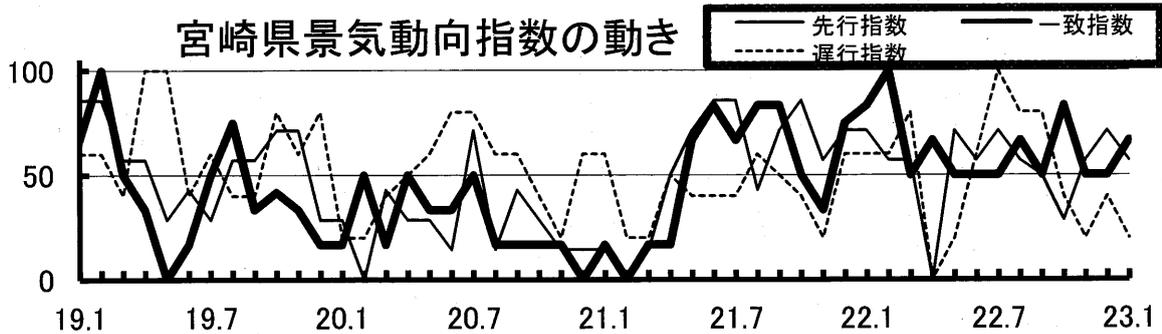
平成 2 3 年 4 月

宮崎県県民政策部統計調査課

(1) 景気動向指数

① 今月の動き (平成23年1月分)

先行指数は 57.1% となり、3 か月連続で 50.0% を上回りました。
 一致指数は 66.7% となり、3 か月ぶりに 50.0% を上回りました。
 遅行指数は 20.0% となり、4 か月連続で 50.0% を下回りました。

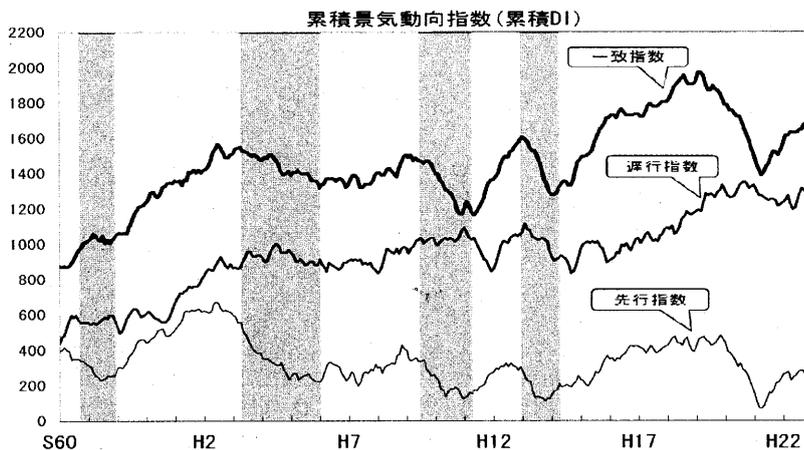


	採用 指標 数	拡張 指標 数	プラスの指標(拡張指標)	マイナスの指標
先行系列	7	4	新規求人数(パート含む)、新車登録台数(乗用車)、鉱工業生産指数、ホテル・旅館宿泊客数	鉱工業在庫率指数(逆)、新設住宅着工戸数、不渡手形金額(実質)(逆)
一致系列	6	4	有効求人倍率、生産財生産指数、大口電力使用量、資本財出荷指数	所定外労働時間指数(製造業)、大型小売店販売額(実質)
遅行系列	5	1	輸入通関実績(実質)	鉱工業在庫指数、信用保証承諾件数、家計消費支出(勤労者世帯)、消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)

注 1 「鉱工業在庫率指数」及び「不渡手形金額(実質)」は、逆サイクルの指標です。

2 「家計消費支出(勤労者世帯)」及び「消費者物価指数(持家の帰属家賃を除く総合)」は前年同月比、それ以外の指標は、センサス法により季節調整が行われています。

② 累積景気動向指数



・シドゥり部分：景気後退期

・見やすくするため、
 先行指数には 400、
 一致指数には 850、
 遅行指数には 450 を
 加算しています。

(参考) 景気動向指数：景気が上向きか、下向きかを総合的に示す指数です。

50% を上回って推移しているときは、景気拡張局面、下回って推移しているときには景気後退局面と判断されます。

累積景気動向指数：各指数から景気判断の基準となる 50 を引くことで、景気の拡張・後退の動向だけを確認することができる指数です。

(2) 宮崎県の鉱工業指数 (平成23年1月分) (平成17年=100)

1 宮崎県の平成23年1月分指数 (季節調整済指数) 注1

		季節調整済指数	
			前月比 (%)
宮 崎 県	生産	98.7	9.2
	出荷	96.4	3.3
	在庫	123.1	0.9

注1 季節調整済指数とは、1年を通してほぼ規則的に繰り返す季節的な変動を除去した指数であり、これにより前月との比較など短い期間の動向をみることができる。詳細については別添資料P10を参照。

【生産】

98.7 (前月比9.2%上昇) ~5か月ぶりの上昇~

生産指数 (季節調整済指数) は前月比9.2% (増) の98.7で、5か月ぶりに上昇した。

これは、紙・紙加工品工業が低下したが、電子部品・デバイス工業や化学工業などが上昇したためである。

【出荷】

96.4 (前月比3.3%上昇) ~3か月ぶりの上昇~

出荷指数 (季節調整済指数) は前月比3.3% (増) の96.4で、3か月ぶりに上昇した。

これは、食料品工業や一般機械工業などが低下したが、化学工業や電子部品・デバイス工業などが上昇したためである。

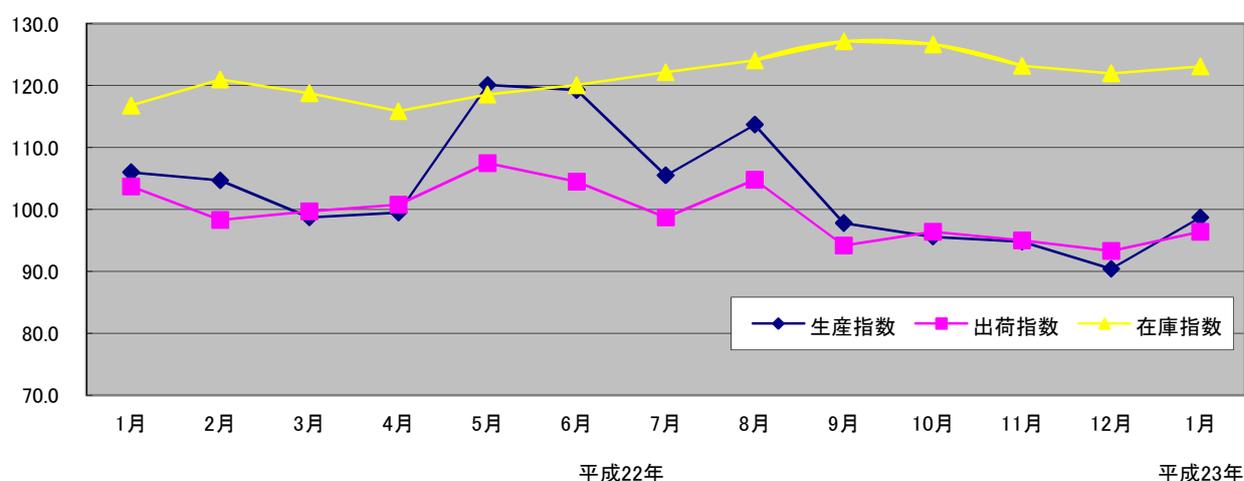
【在庫】

123.1 (前月比0.9%上昇) ~4か月ぶりの上昇~

在庫指数 (季節調整済指数) は前月比0.9% (増) の123.1で、4か月ぶりに上昇した。

これは、繊維工業や紙・紙加工品工業などが低下したが、その他工業や食料品工業などが上昇したためである。

宮崎県の生産・出荷・在庫指数の推移 (季節調整済指数) (平成17年=100)



鉱工業指数は、生産・出荷を101品目、在庫を63品目選定し、それぞれ指数化することで、本県の鉱工業の動向を総合的に把握することを目的としています。

(3)みやぎきの賃金・労働時間・雇用の動き(平成23年1月分)

宮崎県における平成23年1月の賃金、労働時間及び雇用に関する調査結果(調査産業計)は次のとおりです。

【調査結果のポイント】

- ・ きまって支給する給与は前年同月比3.8%減
- ・ 総実労働時間は前年同月比0.6%増
- ・ 常用雇用は前年同月比0.3%減

※ 増減比は平成17年平均を100とする指数で比較。

1 賃 金

「1人平均月間現金給与総額」は213,303円で、前年同月比6.0%減であった。
このうち、「所定内給与」は197,540円、「所定内給与」に超過労働給与を加えた「きまって支給する給与」は211,096円で、前年同月比3.8%減であった。

2 労働時間

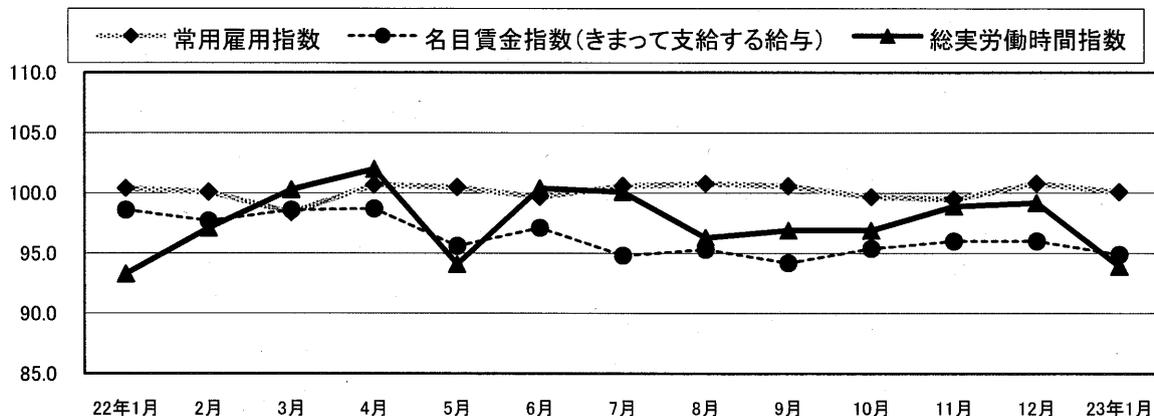
「1人平均月間総実労働時間」は146.8時間で、前年同月比0.6%増であった。
このうち、「所定内労働時間」は138.6時間、「所定外労働時間」は8.2時間であった。
また、「1人平均月間出勤日数」は19.3日で、前年同月差0.2日増であった。

3 雇 用

「常用労働者数」は326,708人で、前年同月比0.3%減であった。

《参考》

	事業規模5人以上	前年同月比 (指数又は日での比較)
1 賃金(名目)		
一人平均現金給与総額	213,303円	(-)6.0%
所定内給与	197,540円	(-)4.3%
きまって支給する給与	211,096円	(-)3.8%
2 労働時間		
総実労働時間数	146.8時間	(+)0.6%
所定内労働時間数	138.6時間	(+)0.3%
所定外労働時間数	8.2時間	(+)6.6%
出勤日数	19.3日	(+)0.2日
3 雇用		
常用労働者数	326,708人	(-)0.3%



(4) 宮崎市の消費者物価指数(平成23年2月分)(平成17年=100)

総合指数 97.7	
前月比 (±) 0.0%	前年同月比 (-) 0.7%

1 あらまし

平成23年2月の宮崎市の消費者物価指数は、平成17年を100とした総合指数で97.7となり、前月と同水準((±)0.0%)。前年同月に比べ(-)0.7%の下落となりました。

前年同月比は平成21年2月から25か月連続の下落となっている。

平成22年4月から導入された「高校授業料無償化」の影響を受け、「教育」が前年同月比-24.9%(寄与度-0.85)と大きく下落しています。
一方、平成22年10月のたばこ値上げの影響などにより、「諸雑費」が前年同月比+6.1%(寄与度+0.37)と上昇しています。

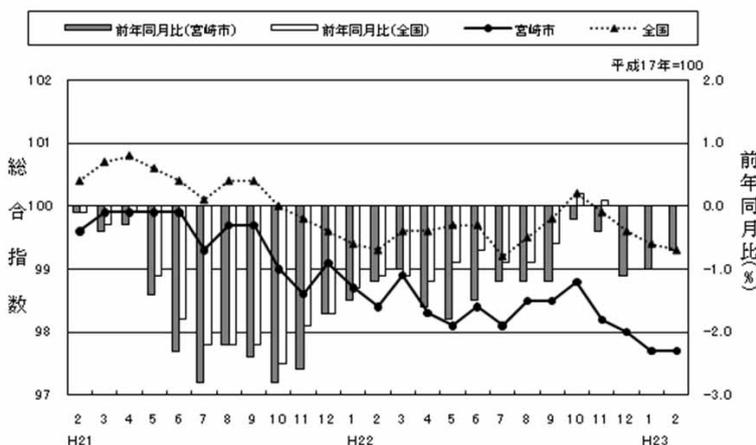
2 前月と比べた主な動き

上 昇 「食料」(生鮮野菜)など
下 落 「交通・通信」(交通)「教養娯楽」(教養娯楽サービス)など

3 前年同月と比べた主な動き

上 昇 「諸雑費」(たばこ)など
下 落 「教育」(授業料等)「住居」(家賃)など

費 目	指 数	前 月 比		前年同月比	
		変化率(%)	寄与度	変化率(%)	寄与度
総 合	97.7	0.0	0.00	-0.7	-0.71
食 料	101.3	0.5	0.12	1.5	0.37
住 居	96.9	0.1	0.02	-2.9	-0.64
光熱・水道	106.0	-0.1	-0.01	1.0	0.07
家具・家事用品	88.0	0.1	0.00	-3.3	-0.11
被服及び履物	93.9	0.0	0.00	-0.8	-0.04
保健医療	96.1	0.3	0.01	-2.2	-0.09
交通・通信	98.1	-0.6	-0.09	1.0	0.14
教 育	76.5	0.0	0.00	-24.9	-0.85
教養娯楽	94.7	-0.3	-0.03	0.6	0.07
諸 雑 費	103.9	0.1	0.01	6.1	0.37



* 参考資料

「月例経済報告」抜粋(平成23年3月23日:内閣府)

[基調判断]

2月月例	3月月例
<p>景気は、持ち直しに向けた動きがみられ、足踏み状態を脱しつつある。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出、生産は、持ち直しの動きがみられる。 ・企業収益は、改善している。設備投資は、持ち直している。 ・企業の業況判断は、慎重さがみられる。 ・雇用情勢は、依然として厳しいものの、持ち直しの動きがみられる。 ・個人消費は、このところおおむね横ばいとなっている。 ・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。 <p>先行きについては、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、<u>景気が持ち直していくことが期待される。</u>一方、<u>海外景気や為替レート、原油価格の動向等によっては、景気が下振れするリスクが存在する。</u>また、<u>デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。</u></p>	<p>景気は、持ち直しに転じているが、<u>自律性は弱く、東北地方太平洋沖地震の影響が懸念される。</u>また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出は、持ち直しの動きがみられる。生産は、持ち直したものの、<u>東北地方太平洋沖地震の影響が懸念される。</u> ・企業収益は、改善している。設備投資は、持ち直している。 ・企業の業況判断は、慎重さがみられる。 ・雇用情勢は、依然として厳しいものの、持ち直しの動きがみられる。 ・個人消費は、このところおおむね横ばいとなっている。 ・物価の動向を総合してみると、緩やかなデフレ状況にある。 <p>先行きについては、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、<u>景気の持ち直し傾向が続くことが期待されるが、東北地方太平洋沖地震の影響に十分留意する必要がある。</u>また、<u>金融資本市場の変動や原油価格上昇の影響、海外景気の動向等によっては、景気が下振れするリスクが存在する。</u>デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。</p>

[各 論]

	2月月例	3月月例
個人消費	このところおおむね横ばいとなっている。	このところおおむね横ばいとなっている。
設備投資	持ち直している。	持ち直している。
住宅建設	持ち直している。	持ち直している。
公共投資	総じて低調に推移している。	総じて低調に推移している。
輸 出	持ち直しの動きがみられる。	持ち直しの動きがみられる。
輸 入	<u>横ばいとなっている。</u>	<u>持ち直しの動きがみられる。</u>
貿易・サービス収支	横ばいとなっている。	横ばいとなっている。
生 産	<u>持ち直しの動きがみられる。</u>	<u>持ち直したものの、東北地方太平洋沖地震の影響が懸念される。</u>
企業収益	改善している。	改善している。
業況判断	慎重さがみられる。	慎重さがみられる。
倒産件数	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
雇用情勢	依然として厳しいものの、持ち直しの動きがみられる。	依然として厳しいものの、持ち直しの動きがみられる。
国内企業物価	このところ緩やかに上昇している。	上昇している。
消費者物価	このところ下落テンポが緩やかになっている。	このところ下落テンポが緩やかになっている。
海外経済	世界経済は、全体として回復している。先行きについては、回復が続くと見込まれる。ただし、欧米の景気が下振れするリスクがある。また、一次産品価格の上昇による影響に留意する必要がある。	世界経済は、全体として回復している。先行きについては、回復が続くと見込まれる。ただし、欧米の景気が下振れするリスクがある。また、原油価格の高騰をはじめとする一次産品価格の上昇を背景に、急速に景気が冷え込むリスクに留意する必要がある。

(注) 下線部は、先月から変更した部分。

* 参考資料

「宮崎県金融経済概況」抜粋(平成23年4月1日:日本銀行宮崎事務所)

2011年4月1日
日本銀行宮崎事務所
日本銀行鹿児島支店

宮崎県金融経済概況

宮崎県の景気は、新燃岳の噴火に続いて東北関東大震災の影響もあって、これまでみられた持ち直しの動きが幾分鈍化している。

1. 個人消費は、小売面で一部に持ち直しの動きがみられるものの、足許では大震災による買い控えや供給制約の影響がみられている。観光面では、新燃岳噴火の影響に大震災の影響が加わり、厳しい状況が続いている。

— 小売動向をみると、3月11日の大震災までは、厳しい雇用・所得環境を映じて消費の地合いは強くないまでも、冬物や梅春物の衣料品販売が好調な先がみられるなどの持ち直しの動きもみられた。既存店ベースの大型小売店販売額は、都城地区の百貨店閉店の影響もあって1月に前年比▲5.6%を記録したが、2月には同百貨店を除いたベースで前年水準を1.5%（速報値）上回った。

大震災以降は、気温低下に伴う春物衣料品の伸び悩みに加えて、震災に伴う来店客数の減少や高額品を中心とした買い控えの動き、催事の自粛などから売上を落とす先が一部でみられている。また、スーパーやコンビニでは、震災関連物資への需要の高まりがみられたものの、震災の影響による供給制約から実際の売上増加にはつながらなかった先もみられている。

— 耐久消費財のうち、乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、2月は新車投入効果もあって前年比マイナス幅が幾分縮小するなど、昨年9月のエコカー補助金制度終了の影響が次第に薄れつつある。もっとも、大震災発生に伴う生産面の制約から3月以降の登録台数は当面大幅に減少するとの見方が多い。

家電販売は、エコポイントの段階的縮小を眺めた駆け込みの反動に加えて、薄型テレビにおける売れ筋商品の小型化や販促のための価格下落などの要因もあって、前年を下回った先が多い。

— 2月の主要ホテル・旅館宿泊客数は、一部でビジネス客による下支え効果がみられたものの、降灰に伴う航空便の欠航増加やJリーグキャンプの短縮・中止の影響もあって前年を大幅に下回った。3月は、新燃岳噴火による宿泊キャンセルに加え、大震災の影響も重なり、前年を大幅に下回ったとする先が多い。

— 主要観光施設入場者数は、旅行需要の弱さに加えて2月は鳥インフルエンザや新燃岳噴火の影響もあって入り込み客が一段と減少した。3月も大震災以降、国内団体客や外国人観光客の旅行キャンセルがみられ前年を大幅に下回ったとする先が多い。

2. 公共投資は低水準で推移している。

- 公共工事請負金額の推移をみると、昨年中は前年比マイナス基調が続いてきた(2010年▲15.2%)が、昨年12月から本年2月までは大口発注で前年を上回るなど、水準は低いながらも下げ止まりの動きがみられている。

3. 住宅投資は極めて低い水準で推移している。

- 2月までの新設住宅着工戸数の動向をみると、政策効果もあって持家は着実な持ち直しを続けているが、貸家、分譲の不調は続いており、全体として前年割れが続くなど低水準で推移している。また、足許では大震災による建設資材調達の困難化から工事の遅延を懸念する声が聞かれている。

4. 生産は足許弱含んでいる。

- 1月までの鉱工業生産をみると、食料品が口蹄疫・鳥インフルエンザの影響や需要減少を背景に伸び悩んでいるほか、電子部品・デバイスも昨年夏場の増産が一巡してきているなど、全体として足許弱含んでいる。

大震災の影響については、電子部品・デバイス関連や自動車部品を中心に幅広い産業で原材料や部品の調達を懸念する声が聞かれている。現段階では被害状況や代替品の調達可能性について見極め難い面は多いものの、3月以降少なくとも数か月は生産の制約要因となる。

5. 雇用環境は依然として厳しいものの、緩やかな改善を続けている。

- 有効求人倍率(季節調整済)は、直近ピーク(06/6月0.72倍)と比べると依然として水準は低いものの、10年春以降緩やかな改善傾向を保っており、2月は0.54倍となった。新規求人については、医療・福祉業、サービス業、製造業を中心に民間求人が増加してきている。

6. 金融面をみると、預金は増勢を維持しており、貸出金も増加している。

- 貸出金をみると、地公体向けが増加しているほか、法人向けも金融機関の貸出姿勢の積極化を映じて、不動産業や医療・福祉業を中心に増加している。
- 貸出約定平均金利は低下を続けており、既往最低を更新している。
- 企業倒産は、月次の振れはみられるが、総じてみれば各種政策効果により引き続き低位にある。

以上

(データ編)
全 国

年 月	雇用・労働							
	有効	新規求職	新 規	常 用	実質賃金指数		所定外	完 全 失業率
	求人倍率	申込件数	求人数	雇用指数	現金給与 総額	きまって支給する 給与	労働時間 指数(製造業)	
倍	千件	千人	17年=100	17年=100	17年=100	17年=100	%	
17年	0.95	6,770	9,908	100.0	100.0	100.0	100.0	4.4
18	1.06	6,615	10,330	100.6	99.9	99.6	103.5	4.1
19	1.04	6,366	9,668	102.2	98.8	99.0	104.4	3.9
20	0.88	6,492	8,142	103.7	97.0	97.3	97.8	4.0
21	0.47	7,919	6,273	103.9	94.6	96.6	65.9	5.1
22	0.52	7,738	6,858	104.2	96.0	97.7	86.8	5.1
22年								
1	0.46	705	557	103.6	82.6	97.1	76.4	5.1
2	0.47	637	541	103.5	80.3	97.6	84.3	5.0
3	0.48	776	601	103.0	83.5	98.1	87.1	5.1
4	0.48	866	552	104.1	83.6	99.0	86.5	5.1
5	0.50	636	498	104.3	81.2	97.1	80.9	5.1
6	0.52	649	568	104.3	132.7	97.9	85.4	5.2
7	0.53	595	578	104.7	111.9	98.3	89.9	5.1
8	0.54	586	574	104.5	83.3	97.5	87.6	5.0
9	0.55	629	624	104.6	80.8	97.3	89.9	5.0
10	0.56	613	644	104.7	80.7	97.2	89.9	5.1
11	0.57	560	600	104.7	84.1	97.5	91.6	5.1
12	0.58	486	522	104.7	166.5	97.9	91.6	4.9
23年								
1	0.61	669	662	104.4	r 82.8	r 96.8	r 82.0	4.9
2	0.62	654	664	p 104.2	p 80.4	p 97.4	p 90.4	4.6
資 料	厚生労働省 「一般職業紹介状況」 *ハ-枠も含む。			厚生労働省 「毎月勤労統計調査」 注)事業所規模5人以上				総務省 「労働力 調査」 注)30人以上

宮 崎 県

年 月	雇用・労働							
	有効	新規求職	新 規	常 用	実質賃金指数		所定外	完 全 失業率
	求人倍率	申込件数	求人数	雇用指数	現金給与 総額	きまって支給する 給与	労働時間 指数(製造業)	
倍	件	人	17年=100	17年=100	17年=100	17年=100	%	
17年	0.61	81,248	71,495	100.0	100.0	100.0	100.0	4.0
18	0.69	78,864	77,304	103.5	100.5	100.1	107.6	3.8
19	0.67	79,740	74,930	107.2	104.2	103.9	109.5	3.3
20	0.56	77,201	62,712	108.2	98.7	99.6	91.0	3.4
21	0.39	87,307	57,100	102.1	95.5	97.4	75.6	4.4
22	0.45	88,158	65,205	100.2	95.3	97.7	104.2	4.8
22年								
1	0.41	7,454	5,508	100.4	86.3	99.8	92.5	-
2	0.39	6,920	4,638	100.1	83.0	99.2	103.3	-
3	0.42	8,441	5,849	98.4	85.7	99.6	106.7	-
4	0.43	10,173	5,169	100.7	86.2	100.4	103.3	-
5	0.43	7,405	4,487	100.5	82.3	97.0	98.3	-
6	0.44	7,586	5,414	99.7	119.2	98.1	99.2	-
7	0.44	7,418	5,527	100.6	113.5	96.0	95.8	-
8	0.45	7,249	5,599	100.8	84.3	96.3	100.0	-
9	0.46	7,490	6,228	100.6	80.2	95.1	102.5	-
10	0.49	7,045	6,093	99.7	80.4	95.9	116.7	-
11	0.50	6,205	5,515	99.5	84.7	97.3	113.3	-
12	0.52	4,772	5,178	100.8	158.6	97.3	119.2	-
23年								
1	0.54	7,823	6,632	100.1	81.5	96.4	100.8	-
2	0.54	7,943	6,711	-
資 料	厚生労働省宮崎労働局 「労働市場月報」 *ハ-枠も含む。			県統計調査課 「みやざきの賃金・労働時間・雇用の動き」 注)事業所規模5人以上				総務省 モデル 推計値 注)30人以上

- 注 1 この統計表の符号の用法は、次のとおりです。
「-」皆無または該当数値なし、「...」数値未詳または不明、「p」暫定(速報)数値、「r」訂正(確報)数値
2 有効求人倍率及び完全失業率は、年平均は原数値、各月は季節調整値です。
3 宮崎県の完全失業率について、労働力調査では都道府県別に表章するように標本設計を行っておらず(北海道及び沖縄県を除く)、標本規模も小さいことなどから、全国の結果に比べ標本誤差が大きく、結果の利用に当たっては注意を要します。

全国

年 月	消費				総合指標		
	大型小売店販売額	主要ホテル・旅館宿泊客数	消費者物価指数	家計調査消費支出(一世帯当たり)	景気動向指数(DI)		
	億円		17年=100	円	先行指数	一致指数	遅行指数
17年	213,284	-	100.0	300,531	-	-	-
18	211,450	-	100.3	294,943	-	-	-
19	211,988	-	100.3	297,782	-	-	-
20	209,511	-	101.7	296,932	-	-	-
21	197,758	-	100.3	291,737	-	-	-
22	193,792	-	99.6	290,244	-	-	-
22年 1	17,147	-	99.4	291,918	79.2	90.9	66.7
2	14,023	-	99.3	261,163	91.7	90.9	50.0
3	15,831	-	99.6	319,991	91.7	90.9	83.3
4	15,463	-	99.6	299,996	91.7	95.5	50.0
5	15,656	-	99.7	280,714	58.3	90.9	33.3
6	15,634	-	99.7	276,494	25.0	54.5	66.7
7	17,189	-	99.2	285,274	50.0	36.4	100.0
8	15,500	-	99.5	293,361	50.0	54.5	100.0
9	14,778	-	99.8	275,367	41.7	45.5	83.3
10	15,809	-	100.2	287,433	25.0	45.5	50.0
11	16,325	-	99.9	284,212	41.7	36.4	33.3
12	20,435	-	99.6	327,006	58.3	72.7	50.0
23年 1	r 17,406	-	99.4	289,191	86.4	90.0	40.0
2	p 14,468	-	99.3	260,793	p 90.0	p 88.9	p 62.5
資料	経済産業省「商業販売統計」		総務省「消費者物価指数」	総務省「家計調査」	内閣府経済社会総合研究所「景気動向指数」		

宮崎県

年 月	消費				総合指標		
	大型小売店販売額	主要ホテル・旅館宿泊客数	消費者物価指数(宮崎市)	家計調査消費支出(一世帯当たり)	景気動向指数(DI)		
	百万円	人	17年=100	円	先行指数	一致指数	遅行指数
17	93,738	1,160,221	100.0	300,649	-	-	-
18	94,743	1,164,424	99.8	258,311	-	-	-
19	93,523	1,234,251	99.8	265,478	-	-	-
20	89,268	1,173,461	101.2	266,500	-	-	-
21	85,972	1,035,785	99.6	243,309	-	-	-
22	86,864	999,736	98.4	265,322	-	-	-
22年 1	7,849	75,268	98.7	256,375	71.4	83.3	60.0
2	6,225	101,262	98.4	201,940	57.1	100.0	60.0
3	6,855	101,865	98.9	253,521	57.1	50.0	80.0
4	7,147	68,091	98.3	263,411	0.0	66.7	0.0
5	6,831	86,891	98.1	269,185	71.4	50.0	20.0
6	6,608	57,476	98.4	319,324	57.1	50.0	60.0
7	7,852	69,345	98.1	260,903	71.4	50.0	100.0
8	7,320	108,624	98.5	274,816	57.1	66.7	80.0
9	6,344	69,629	98.5	275,671	50.0	50.0	80.0
10	7,061	89,657	98.8	278,406	28.6	83.3	40.0
11	7,149	88,707	98.2	239,787	57.1	50.0	20.0
12	9,623	82,921	98.0	290,530	71.4	50.0	40.0
23年 1	r 8,195	74,491	97.7	292,123	57.1	66.7	20.0
2	p 6,700	77,561	97.7	229,347
資料	経済産業省「商業販売統計」	県観光推進課	県統計調査課	総務省「家計調査」宮崎市	県統計調査課「宮崎県景気動向指数」		

- 4 大型小売店販売額は、百貨店及びスーパーの販売額です。
 5 家計調査消費支出(一世帯当たり)は、二人以上の世帯です。

全国

年 月	生産						投資		
	鉱工業生産指数		鉱工業出荷指数		鉱工業在庫指数		新設住宅	着工建築物	
	原指数	季節調整 済指数	原指数	季節調整 済指数	原指数	季節調整 済指数	着工戸数	床面積	工事費 予定額
	17年=100	17年=100	17年=100	17年=100	17年=100	17年=100	戸	千㎡	億円
17年	100.0	-	100.0	-	100.0	-	1,236,175	186,058	280,269
18	104.5	-	104.6	-	102.1	-	1,290,391	188,875	288,426
19	107.4	-	107.8	-	103.9	-	1,060,741	160,991	248,943
20	103.8	-	104.3	-	106.7	-	1,093,485	157,411	268,082
21	81.1	-	82.1	-	97.2	-	788,410	115,486	204,066
22	94.0	-	95.6	-	96.0	-	813,126	121,455	206,913
22年									
1	83.5	94.3	83.8	95.0	97.0	94.0	64,951	8,970	15,700
2	88.0	93.7	89.4	94.8	98.6	95.5	56,527	8,641	15,629
3	101.6	94.8	107.7	96.7	89.6	94.0	65,008	10,366	18,544
4	90.5	96.0	91.4	98.1	91.3	94.6	66,568	9,905	17,160
5	87.4	96.1	86.5	96.4	95.4	96.5	59,911	9,262	15,633
6	98.8	95.0	100.0	96.6	96.3	97.2	68,688	10,480	17,470
7	98.1	94.8	99.2	96.5	96.9	96.7	68,809	10,701	17,840
8	89.8	94.3	90.7	95.7	98.0	97.5	71,921	10,698	17,875
9	101.2	92.8	105.1	95.2	95.2	97.6	71,998	11,279	19,393
10	94.6	90.9	94.5	92.3	98.0	96.6	71,390	10,602	17,904
11	97.0	91.8	98.7	94.7	98.8	94.9	72,838	10,271	16,960
12	97.1	94.8	100.3	95.8	96.5	96.4	74,517	10,279	16,805
23年									
1	r 86.4	r 96.0	r 86.1	r 96.4	r 103.5	r 100.3	66,709	9,733	16,630
2	p 90.5	p 96.4	p 92.4	p 98.0	p 105.1	p 101.8	62,252	8,985	15,216
資料	経済産業省 「生産・出荷・在庫指数」						国土交通省 「建築着工統計」		

宮崎県

年 月	生産						投資		
	鉱工業生産指数		鉱工業出荷指数		鉱工業在庫指数		新設住宅	着工建築物	
	原指数	季節調整 済指数	原指数	季節調整 済指数	原指数	季節調整 済指数	着工戸数	床面積	工事費 予定額
	17年=100	17年=100	17年=100	17年=100	17年=100	17年=100	戸	㎡	千万円
17年	100.0	-	100.0	-	100.0	-	7,809	1,523,645	16,683
18	107.5	-	108.3	-	107.6	-	8,186	1,538,660	17,839
19	107.0	-	109.3	-	109.2	-	7,286	1,443,554	16,854
20	98.9	-	102.2	-	111.0	-	7,811	1,272,598	16,592
21	82.7	-	86.6	-	114.0	-	5,602	885,130	12,228
22	103.1	-	99.3	-	121.4	-	5,738	1,075,476	13,996
22年									
1	95.8	106.0	91.6	103.7	120.3	116.8	519	120,098	1,548
2	99.3	104.7	92.8	98.3	123.6	121.0	425	57,337	727
3	104.2	98.7	103.4	99.7	120.0	118.8	504	107,082	1,316
4	97.7	99.5	99.8	100.8	117.8	115.9	363	87,450	1,000
5	106.5	120.1	97.0	107.5	118.4	118.6	324	69,357	854
6	114.1	119.3	101.4	104.5	118.7	120.1	409	87,223	1,046
7	104.0	105.5	100.3	98.7	119.0	122.2	574	80,686	1,069
8	106.0	113.7	99.9	104.8	119.9	124.1	432	80,065	1,111
9	103.4	97.8	98.8	94.2	123.5	127.2	474	120,847	1,581
10	104.8	95.6	101.3	96.4	125.1	126.7	597	110,213	1,688
11	104.3	94.8	102.1	95.0	125.4	123.2	526	75,861	988
12	97.5	90.4	103.5	93.3	124.5	122.0	591	79,257	1,069
23年									
1	90.7	98.7	86.6	96.4	126.8	123.1	428	81,602	1,201
2	351	92,748	1,203
資料	県統計調査課 「宮崎県鉱工業指数月報」						国土交通省 「建築着工統計」		